83政治決戦勝利へ

三月七日に開かれた第十二回委員会で、熊本一区衆議院議員候補に高宗昭敏氏を推薦することを決定しました。

熊本一区
推せん　高宗昭敏

（経歴）昭和六年十一月生まれ、五十一歳。三十一年早稲田大学政経学部卒。三十六年東海大学政経学部専任講師、五十年同助教授、五十五年同教授、現在に至る。昭和三十一年日本社会党入党。現在日本対外文化協会理事などを努める。現住所・熊本市京町二丁目一四七の六コーポ柳川。

北海道・九州で　重大災害つづく

運搬災害の絶滅を　監督局が警告出す

芦別鉱

三月二十五日午前四時四十分ごろ、三井芦別鉱N四マイナス七百九十メートル北十番坑道の払で発破事故のため、三井建設掘進工の菅原武治さん（四十九歳）が死亡されました。

池島鉱

三月二十七日十二時二十五分ごろ、池島鉱蟇島水平坑道で蓄電車操作中、電気工の丘嘉信さん（三十九歳）が蓄電車に接触して死亡されました。

高島鉱

四月四日午後十一時ごろ幌内第二斜坑四片捲立附近でホイストのロープが切断、炭車が逸走し運搬工の大友信幸さん（四十一歳）が実車にまき込まれて死亡されました。

南大夕張鉱

四月十六日桂坑で電車と列車が衝突し、乗車していた運搬工の安藤賢三さん（四十八歳）が列車の下敷きになり死亡されました。

真谷地鉱

四月十七日十御坑道で空車を下げているとき立函と衝突し、函に乗っていた下請の係員直井重美さん（四十九歳）が、側壁と実函にはさまれて死亡されました。

×

以上のようにこのごろ連続して死亡災害が起こっています。犠牲者と遺族の方々に心から哀悼の意を捧げるとともに、災害を引き起こした会社に怒りをもって抗議します。

この五件の災害のうち四件が運搬事故によるものであり、このほかにも死亡事故にはならなかったものの重傷者を出した災害も、高島鉱と池島鉱で一件ずつ起こっています。

三池でも運搬災害や事故は、いぜんとして後を絶たず、憂慮されています。

四月二十日、福岡鉱山保安監督局は、局長名で管内の炭鉱に対して「運搬災害の防止について」という警告を出しました。それによると、災害の原因などについては調査中としながらも、①運転手と誘導員の連絡不十分、②運転手の前方監視不十分、③指差呼称の不履行、④炭車への搭乗、⑤係員の申し継ぎの不徹底、⑥作業者間の連絡不十分、などを推定し災害防止に万全を、としています。

もとより運搬災害については、当事者の保安上の義務が問題になりますが、あわせて運搬経路や設備の不備、人員の不足なども抜本的に見直し、改善しなければ人命は守れません。

夕張情報

早急な再建が待たれている北炭夕張の再開発問題は当初四月中に結論を出すことになっていましたが、石炭協会は結論はまだ先になるとして炭労の要求に対し、四月十六日中間報告のかたちで説明しました。

これによると、①採掘可能炭量を千三百五十万トンとする、②フル生産時の年間生産量を七十万トンに引き下げる、③開発から生産までの期間を約一年縮めて三年七カ月とする、④保安面で万全の配慮をした骨格構造を作る、などを前提に再開発が可能かどうか検討している、となっています。これは開発に必要な資金や雇用人員を決める上での基礎的な条件になるものと見られます。

予想されたとはいえ、石炭協会の〝中間報告〟はやはり不透明なまま。炭労は、①実収炭量は三千万トン以上ある、②人員計画が示されていない、など五点について不満を示して再検討を要求しました。このままだと「再開発は無理」との結論が出される可能性もあり、二十二日さらに石炭協会との折衝を行ないました。

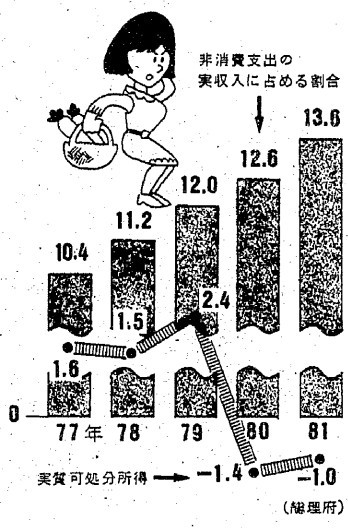
〈グラフ解説〉83春闘のために　収入上回る支出

可処分所得が実質減少となった原因には、非消費支出の伸びが実収入の伸びを大きく上まわっていることがあります。この傾向は一九七一年以降続いています。

このため、非消費支出が実収入に占める割合は、七五年の八・七%から八一年には一三・六%に増加しています。

非消費支出の内訳をみると、八一年の勤労所得税が前年比で名目一二・九%、地方税など「他の税」が一四・〇%など、いずれも勤労者の実収入増加率五%を大きく上まわっています。

所得が増えないわけ



県政革新の期待
―知事選に勝って―

県民の会常任幹事　岩崎隆次郎氏に聞く

十六年ぶりに福岡に革新知事が誕生した。奥田八二さんは郡部でも都市部でも完勝し、自民、民社が推す亀井光候補に五万票の差をつけた。しかし、同時に行なわれた県議選では、自民党は現有議席を三増やし、単純に保守敗北とは言えない。今回の結果をどうみるか、革新共闘のあり方はどうだったのか、今後四年間革新勢、とくに労働組合は奥田革新県政をどのように支えていくのか。――「県民の会」常任幹事として選挙戦の指揮をとった岩崎隆次郎県評事務局長に聞いた。〔連合〕

―まず、勝因について。

なんと言っても全国一豪華な知事公舎建築への怒り、おごりへの批判だ。税金で一万五千円のくずかご、五千円のスリッパをそろえて平気でいる亀井知事は婦人の気持ちを理解できなかった。また、平和への関心もあった。

―県議選で自民は議席を増やしたが、どうみるか。

保守が負けたとは言えないと思う。社、共、労（県評）の力はまだ弱かったのだ。しかし、その外側に県政刷新の熱い期待があったということだ。「県民の会」（社、共、県評、学者・文化人で構成）へ注文が多数寄せられた。私たちはそれを受け入れた。共産党も原則は守りながらも、そうした要請によく応じてくれた。

―「県民の会」の共闘はどうだったか、労組の対応は？

選挙は本来政党が主体だ。労組は政党ではない。ただ知事選だから私たちは社・共共闘を大事にした。同和問題、社公政権合意、労働戦線統一問題など、中央で社、共が対立しても、地方では運動の伝統を大切にした。今回、選挙に勝って自信を取り戻した。今後も労組が両党の〝かすがい〟の役割を果たすべきだと思う。

―保守多数の下、どう革新県政、共闘を支えていくか。

奥田さんに出馬要請したとき、「社、共、労の要求と県民の利害が対立したとき、君たちはどうするか」と問われた。私たちは「そのときは県民の利益を優先しよう」と答えた。この間も労働者（労組）はわがままを出さないできた。例えて言えば、（亀井県政下で）野菜いためばかり食べてきたが、今度はビフテキとなるのか。やはり、もう四年間それが必要なら野菜いめを食べ、ビフテキに手を出すのは控えようということだ。

〈当選後の奥田さんのことば。

「組合の意見は、十分聞く。労使の歯車がかみあうよう努力する。組合に勘弁してもらうこともある」。奥田さんの先輩で「県民の会」の代表幹事・具島兼三郎九大名誉教授の弁。「奥田さんは社共の枠を超えた幅広い県民の代表。県政の革新はドラスチックではなく、着実にだ」〉

―今後「県民の会」は？

「県民の会」は存続することになろうが、主体（社、共、労など）がしっかりしていれば他は柔軟であっていい。今回、主体はしっかりしていたし、戦略も正しかった。しかし、亀井陣営はあれだけ批判があっても百十七万票をとった。われわれの力は弱かったが、すこし自信を取り戻したのも確かだ。

なかま

九分会（三川）　弥永善治さん

○…弥永さんは中国の青島市生まれ。昭和十二年、天津へ移ると同時に支那事変が起こり、砲火の中を逃げまどい、敗戦後は帰国途中で子供を預けたり、殺したりの生き地獄を経験し、「戦争は人類の破壊であり、戦争反対を後世に語り継ぎたい」と決意する。

○…昭和二十一年宮浦鉱に入ったが、三十八年三月落盤にあい全身生き埋めになる。「もし助かったら炭鉱をやめよう」と考えたが、組織の別なく懸命に掘り出してくれた仲間に、どうしても別れが言えなかった。

「組合員は、経験豊かな人たちばかりでやる気は十分。掘り起こしが大切だが、形式的なパターンの運動には腰が重いのでは……。小数になるが、密度の濃いまとまった組合像を期待したい」と注文。

○…楽しみは読書と映画と酒。読書は手当たりしだいの乱読だが、とくに時代劇の英雄伝などを好む。映画は月に一、二回。酒は大好きで「人生がバラ色に染まっていくから……」と。秋には定年退職が待っている。

（宮原正満・記）

弥永さんは、大牟田市新勝立町の大砂社宅10棟で、奥さんの登志子さん（52）と二人暮らし。

あほンだら
芝岡&友衛